

### 国指定重要有形民族文化財

- ・名称 田沢湖のまるきぶね
- ・指定年月日 昭和39年5月29日
- ・材質・形状 杉材くりぬき一木造り
  - 長さ 5.76メートル
  - 幅(最大) 0.42メートル
- ・所在 田沢湖郷土史料館



### 由緒、沿革及び経緯等

1本の杉で作られた<sup>くりぶね</sup>刳舟です。田沢湖では杉のほか<sup>ひのき</sup>檜や<sup>なら</sup>榎、松材も利用された。一般的なサイズは、長さ5～7m程、幅は50～60cm程だった。

舟の前部を「ハナ」、後部を「トモ」、底部を「シタ」、側面を「ホテ」と言われ、トモのあがりは約40度位、底部につく細木は「ユギ」あるいは「ネジリ木」と言い、舟をつなぎとめる際に使われるもので、舟によってはハナについたものもあった。

舟は、トモ部に敷いた「ノシ板」(またはシツツキ板)に正座して、ヘラ<sup>かい</sup>(櫂)を片手に持って操るもので、1人乗りが主だった。

昭和15年以前までは、田沢湖にはクニマスをはじめ、コイ、イワナ、コアユ、ウナギなどの多くの魚が生息した。この「まるきぶね」は明治30年頃に作られたと伝わっており、実際にこれらの漁で使用されてきたものである。

田沢湖で漁業が行われた証として、後世に伝えていきたい。

### 市指定有形民族文化財

- ・名称 大沼の漁具・キッチ・櫂
- ・指定年月日 昭和40年1月29日
- ・所有者 田沢湖梅沢字森腰 大石清美
- ・材質・形状 杉材
  - 長さ 2.72メートル
  - 幅 0.65メートル
  - 深さ(内側) 0.17メートル
- ・所在 田沢湖郷土史料館



### 由緒、沿革及び経緯等

梅沢の大沼で<sup>こい</sup>鯉や<sup>なます</sup>鯰をヤスで捕るときに用いられた。お盆の頃には、婦人たちによるジュンサイ採りにも使われたという。今では見られなくなった風物詩である。

大沼で用いられた舟は「フネ」と呼ばず「キッチ」と言われた。これは、梅沢城主が舟遊びをした時に遭難し、舟は縁起が悪いと、湿田で使うキッチ(箱舟)になぞらえて大沼で使う舟を「キッチ」と呼ぶようになったと言う。時の梅沢城主が非常に<sup>げん</sup>“験”を担ぐ城主だったようで、こんな逸話として残ったのかもしれない。